

農林水産大臣賞

『牛乳ロスのロス』

埼玉県さいたま市立宮原小学校 五年 女子 清水 綾珠

親友のお母さんが、最近私の学校の給食室で働き始めました。学校で会うといつもと、おいしかった？全部食べられた？」

「おいしく、より楽しいものになりました。でも、びっくりする話も聞きました。」

「給食の残りが本当に多くてもつたいない。」

「給食は給食費をはらってみんなが買ったものだから、他の人にあげることができない。だから残った牛乳も賞味期限前なのに毎日わざわざパックを開けて全部捨てている。」

何ということでしょう。ご飯やおかずはまだ理解できますが、保存できるパックの牛乳をわざわざ開けて捨てているという事実に、私は本当にショックを受けました。

新型コロナウイルスが流行して休校になった時に、私は農林水産省の方が「いつもより牛乳やヨーグルトを一本多く買ってほしい。」と訴える動画を見ました。「学校給食がなくなり牛乳の消費量が減ってしまった。このままでは、牛乳を捨てたり、牛の数を減らしたりしなくてはならなくなる。」とのことでした。私はそんなことにならないよう、毎日たくさん牛乳を飲み、それは今でも続けています。ところが、学校給食が再開され消費量が増えても、実は飲まれずに捨てられている牛乳がたくさんあったのです。

そこで、何とかこの牛乳を捨てずにすむ方法がないかと考えました。まずは、捨てられている事実を全校児童やほご者に伝えることです。「捨てるくらいならもつたいないので寄付します」という人はたくさんいるはずですが、その同意をもらい、まずは牛乳のはいきをなくします。次に、その牛乳をどうするかを考えます。職員室に冷蔵庫を置いて入れておき、休み時間にだれでも飲んでよいことにしようか。飲みたい人はたくさんいるはずですが、授業で使うのもいいと思います。お酢を入れて固めてみたり、牛乳寒天にしたり、小学生が楽しめる実験やメニューはたくさんあります。最後に、それらの取り組みの結果を、きちんと全校で共有することです。成果がわかればさらにがんばれます。

日本の食品ロスは計で年間五百二十二万トンです。これは、毎日国民全員が茶碗一杯分のご飯を捨てているのと同じくらいの量なのでそうです。世界では戦争や貧困などで食事がとれない人々が多くいます。今私たちにできることは、食べられることに感謝をし、残さずに食べることでないでしょうか。食べられるものを捨てるべきではありません。

毎日数十本の牛乳を開けて捨てるという作業はとても辛いことだと思います。大好きな親友のお母さんにそんな思いをさせないためにも、牛乳ロスのロスに向けて、新学期に学校で色々な提案をしたいです。